

## 4. 女性と公民館

福生市女性学級

公民館が開館してからの10年間の女性の活動は、公民館を拠点にして女性たちが自らの生活の新たな可能性を見つけ、仲間と共に活動していくことから始まり、女性問題とは何かという学習を経て、女性問題を解決していくための学習・実践へと変わってきていた。

この10年は、女性がより輝いて生きていけるように、学習内容も様々なアプローチの方法をとりながら、女性問題の解決をめざした。

松林分館においては、昭和63年度から平成3年度までの4年間、「主婦再就職への設計図」と題し、専業主婦の再就職をめざした簿記の資格取得のための講座を開催し、一定の成果を得ている。また、昭和62年度には婦人問題講座「子育て以後の私の生き方」、平成4年度には婦人学級「40代からどう生きるか」、平成6年度には女性学級「高齢化社会と豊かな老後」、平成7年度には「男女共生をめざしての講座」、平成8年度には「女性が輝いて生きるための講座」を開催し、女性問題とは何か、解決へ向けて自分達には何ができるのかを考える学習の場を設けている。

白梅分館においては、「しらうめ“婦人のひろば”」が主催事業として平成2年度まで行われるが、平成3年度からは自主グループとして活動を始める。平成3年度からの主催事業は、保育室併設の講座のみで、女性だけを対象にした講座や、女性問題解決をめざした講座は開催されていない。

公民館の女性事業としてこの10年での特筆すべきことといえば、「ふっさ女性フォーラム」の開催であろう。平成4年度からの新規事業として、より多くの市民に女性問題を知ってもらい、解決へむけて共に実践していくきっかけとなるように、小ホールを利用し、だれもが参加できるスタイルで行われた。

公民館ではそれまでも講座や教室を中心に女性

問題に取り組んできており、それは女性問題を解決するための適切な学習形態であるので、これからも公民館での女性問題学習の中心を担っていくが、フォーラムはより層を広げていく役割を担ってスタートした。

企画、運営は市民の参加による実行委員会「女性フォーラムをすすめる会」（以下「すすめる会」）において行われており、その場も大切な学習の場となっている。スタート当初は「福生市女性問題連絡会」を中心とした「すすめる会」であった。次第に公募での参加者、事前学習会から引き続いて参加する人など、連絡会以外のメンバーも加えて行われるようになってきているが、「すすめる会」のメンバー数を増やしていくこと、層を広げていくことが大きな課題となっている。

その他の主催事業としては、公民館本館の展示室を利用し、視覚面からアプローチするパネル展が平成4年度からスタートしている。また、従来女性は苦手とされていた力仕事や機械操作の技術を学ぶ講座も行われている。（昭和62年度～平成元年度「おかあさんのカメラワーク」、昭和63年度「女性のための家庭大工教室」、平成4年度～平成6年度「女性のためのワープロ教室」）

公民館本館における女性対象の講座、女性問題解決を目指した講座の内容については後に全て掲載しているので参照されたい。

また、年一回行われる「公民館のつどい」では、「福生市女性問題連絡会」が中心となって女性問題を考える分科会を行っている。（公民館のつどいの章を参照）

自分の身近にある女性問題に気づき、地域の仲間と共に乗り越えていくための市民の主体的な学習の場は公民館に根ざし、これからも公民館を中心に広がっていくことであろう。

## 公民館の女性問題講座を考える

福生市女性問題連絡会  
石橋初子



福生市公民館が創立20年になるということだが、女性のための講座の前半10年は学習会に参加する市民も職員もきっと手探りだったと思う。1970年代から1980年代前半までのウーマンリブや男女雇用機会均等法や家庭科男女共修の運動など、女性が自分の生き方と真正面から向き合い、闘っている様子の報道は、冷やかし半分や意地悪なものが多く、これらの動きを参考にしようとか、女性の生き方のモデルにしようなどとは認識されなかったようだ。早い話、初期の公民館で学習をした女性の中には、「女性が仕事を持つのは、かわいそうな立場の人、もしくは贅沢な欲張りな人」と思っているのではないかと感じられる節があった。

1985年、国連の『女子差別撤廃条約』を日本も批准した年、福生市でも女性たちが『女子差別撤廃条約』って何だろうと学習会を持ち、終了後、現在の「女性問題連絡会」の基礎になる「福生市婦人問題連絡会」を発足させた。9月には当時の市長田村匡雄氏に、『福生市の婦人行政に関する要望書』を出している。

その内容は(1)福生市の婦人問題を解決するための行動計画の策定、(2)福生市における婦人に関する実状の調査・研究、(3)福生市における婦人に関する専門窓口の設置、この3点。11月には921名の賛同署名も提出した。

行動計画は10年かかって第一次が策定され、実状調査・研究も一応形だけまとめてあるようだ。しかし、前記2点の実施になくてはならない女性問題専門の窓口がいまだできていない現在ではあ

る。

この学習会の記録を読み返してみると、「夜の講座は、幼い子どもがいるので出席はできないが、記録テープを聞いて参加したい。自分の閉塞感、息苦しさを乗り越えるために」という情熱ほとばしるメモがあったりする。この時期から、働いている女性と一緒に女性問題を考えていきたいと思ってくれたようで、講座の準備会が夜に開かれ始めた。しかし、「この講座の目的は何ですか。『条約』をただお勉強する場なのか、それとももっと具体的なものを目指しているのか、主婦にとって自分との検証なく勉強しても何も変わらないだろうと思う」という発言には、公民館の女性問題講座が抱える「学んだあとはどうするの」が伺える。

私個人はその頃、自前のスペースを女性5人で運営していたのだが、1986年の『女のつどい～私のできること・生き生き暮らしたいな～』にパネラーの一人として呼ばれ、その活動の話をしたことで、初めて公民館の様子を知ることができた。その後、男女共修家庭科をテーマにした映画の自主上映をした仲間とグループをつくり、更年期の女性のからだについて女性の産婦人科医師に話を聞いたり、サンフランシスコのウイメンズクリニックで働いた経験者の話を聞いたり、女性の大工さんから男性の職域に進出している日本の女性たちと欧米の女性たちの話を聞いたりの活動しながら、徐々に「女性問題連絡会」の活動に合流することが増えていった。

毎年の『女のつどい』と『講座』の実行委員会には「女性問題連絡会」として参加し、企画の段階から職員と一緒に積み上げていったつもりだった。その間に女性問題の専門職員を置いて欲しい、また、複数の女性職員が必要と要望書を出したり、1992年からは『ふっさ女性フォーラム』も加わり、目の回る忙しさで、まだ体力があったとは言え、この10年の間には準備会や定例会の出席者数が心

## ふっさ女性フォーラム

元担当職員 名 取 明 美

昭和55年度から平成7年度までの16年間を公民館職員として主に女性問題の仕事に関わらせていただいたことを、今は嬉しく思います。

その16年を記録や資料をひもとき読み返してみると、様々な思いがよみがえってきます。共感できたときの喜び、理解しあえないときのもどかしさ、どれも市民との関わりの中での思い出ばかりです。

学校を出ただけの何の力もない自分が「ふっさ女性フォーラム」の実施までこぎつけたのは、私を励まし、時には叱ってくれた共に歩む市民がいたからの一言に尽きます。私一人の力では何もできなかったでしょう。

「ふっさ女性フォーラム」は、平成4年度に第1回が実施されました。以後年1回小ホールにて行われるわけですが、「フォーラム」の構想は思いつきではありません。



ふっさ女性フォーラム'94（6年度）

昭和58年の第2回「公民館のつどい」から始まった分科会「女のつどい」や、女性問題講座の積み重ねがあって実現したものと思います。

これらの事業には準備会として市民が関わっていました。どんな内容でどう進めていくかを、関心のある市民と話し合っていくもので、時には本講座以上に厳しい質疑が繰り返されたりします。

細くなっていったのも当然かなと思えた。私たち自身がいくら学習したいからといっても、「女性問題連絡会」としては、あまりに公民館の便利屋さんになってしまったことの反省もあり、現在はビデオを見て話し合ったり、ゆっくりとできる活動にしぼっているためか、今まで休んでいたメンバーが復帰したり、新しい仲間が増えたりしている。

2年前からは不定期ではあるが、活動報告も発行できるようになった。この編集作業が結構楽しい。家庭の中で、通勤の途中で、職場で、地域のつきあいで出てくる性別役割分業の壁をどうくずしていこうかと、ワイワイ話し合う。その中で共感し、そしてその思いが重なるところを支え合って、そこからエネルギーをもらえたら、親とか夫、子どもとか地域に一人の個人として自信を持って向き合って、関係性を変えていけるではないか。

女性たちが女性の立場で、女性の視点で、夫と1セットではなく、子どもと1セットではなく、個人として立つというところが重要なのだと思うのだが、女性に反発を買うのもまさにこの「女性たちが」という言葉なのだ。慣習的に、意識せずに、父親だったらこう考えるだろう、夫だったらこうと、自分自身のためでなく男性のための人生、男性から評価されることを最重要に位置づけている女性には、自分が否定されているように感じられるらしい。その結果、女性同士が分断させられて、「男女共同参画社会」する女性が遥か向こうに遠のいてしまう。このあたりが公民館の女性問題講座の積み残し部分、これからの10年に向けての課題だと思えるのだが、いかななものであろうか。

こうして本番を迎えるわけです。

「女のつどい」の記録集は市民の発意によってできあがったものです。当時はワープロなどありませんから、すべて手書きでオフセット印刷でした。イラストから製本まで皆で手分けして作業したことも懐かしいことです。ですから、今以上に福生の女たちが公民館に集い合い、語り合い、ということが繰り返し行われていました。そんな中で、自然と福生の女性問題にどう取り組んでいくかという話題も出ていたのです。

このような動きの中で、昭和60年度の女性問題講座終了後、参加者を中心として7月に発足した「女性問題連絡会」（以下「連絡会」）は、一つの頂点であったかもしれません。女性問題に関心のある者同士が、女性問題解決を目指してグループを越えてつながろうとしたネットワークで、福生市では初めての横断的な組織でした。以後「連絡会」と連携を取りながら女性問題の事業が進められていきました。また、「連絡会」は、「福生市の女性問題を解決するための行動計画」策定要望書を二度にわたり市長へ提出する等の活動も続けていきました。

こうした動きと相まって、昭和62年度頃から講座や「女のつどい」ではない形の「講演会」や「まつり」のようなものやってみてはという意見が、女性問題講座の準備会などで語られていました。その時は予算的にもすぐに実現しませんでした。その時は予算的にもすぐに実現しませんでした。市民と共に将来展望を語り合う中で、私はいつの日か必ず実現しようと心に決めていました。

この構想の中に「ふっさ女性フォーラム」が入っていました。それまで公民館の女性問題事業は、講座や「つどい」のような、どちらかといえば話し合いが中心でした。けれども5年、10年と経ていき、講座や「つどい」の参加者が広がらなくなっている状況の中でどうしたらもっと多くの市民にアピールでき、共に歩む仲間をつくらせてい

けるかという課題に直面したのです。

その時に、以前から温めていた「ふっさ女性フォーラム」を「連絡会」に提案しました。平成3年度のことです。予算化されれば運営も協力してもらおうことになりました。将来的には「フォーラム」の運営は市民による実行委員会を考えていました。市民が主体となって女性問題の解決に向かった活動としていきたくったからです。

こうして、「ふっさ女性フォーラム」はより多くの市民と女性問題を考えるきっかけとして、また、女性問題をより深めて学習し解決を目指すものとして講座を位置づけたのです。

国際的には1975年（昭和50年）から始まった「国際婦人年」を追い風に、こうした「福生市女性問題連絡会」を中心とする地道な活動や、女性問題講座の実績が実って、「フォーラム」の実施に至ったと思います。

一連の流れの中で生まれた「フォーラム」が、そのねらいのとおり、福生の女性問題を考える仲間を増やしながら、解決に向けた歩みを続けていくよう願ってやみません。



ふっさ女性フォーラム（8年度）

## 昭和62年度

### 婦人問題講座「女と男の未来」

期 間 昭和62年4月2日(木)～6月18日(木)

午後7時30分～9時30分 全10回

会 場 公民館

参加者 48人×10回=480人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 2	家族って何だろう I	結婚とは?家族とは?家族にお きている問題を考える	吉 武 輝 子 (評論家)
9	〃 II		
16	私にとって家族とは I	社会の中の家族の役割	折 井 美 耶 子 (女性史研究家)
23	〃 II	自分の問題を出しあい整理する	
5. 7	子育てから見た女のすがた、 男のすがた	子育て期の女性を通して	熊 谷 真 弓 (武蔵大講師)
14	女たちが手をつなぎあうために	いろんな立場の女の問題をみん なの問題にしていくために	
28	これからの女と男 I	これからの夫婦、家族を考える	海 老 坂 武 (一橋大教授)
6. 4	これまでのまとめ	話しあい	
8	これからの女と男 II	これからの夫婦、家族を考える	海 老 坂 武
18	講座のまとめ	これまでのまとめ	折 井 美 耶 子

### 女のつどい「シネマ&トーク」

期 間 昭和63年3月12日(土) 午後1時30分～5時

会 場 公民館

映 画 「愛のイェントル」 主演 バーブラ・ストライサンド

参加者 20人

### お母さんのカメラワーク

期 間 昭和62年10月9日(金)～11月6日(金)

午前10時～正午

会 場 公民館及び野外

参加者 17人×4回=68人

月 日	内 容	場 所
10. 9	子どもの目の高さで	公 民 館
16	動きをとらえる	〃
23	野外ショット	羽村町動物公園
11. 6	ま と め	公 民 館

## 昭和63年度

### 女のつどい「シネマ&トーク」

期 間 昭和63年 5 月 28 日 (土) 午後 2 時～6 時 30 分  
 会 場 公民館  
 参加者 26人  
 内 容 映画「カラーパープル」を見て話しあう  
 助言者 吉田真由美 (映画評論家)

### おかあさんのカメラワーク

期 間 昭和63年 6 月 24 日 (金)～7 月 15 日 (金) 午前 10 時～正午 全 4 回  
 会 場 公民館および中央図書館内暗室  
 参加者 5 人×4 回=20人  
 講 師 奥村 嘉郎 (東京工芸大学)

月 日	内 容	場 所
6. 24	子どもの目の高さでとらえる	公 民 館
7. 1	動きをとらえる	〃
8	野外ショット	〃
15	ネガ現像・プリント現像	中央図書館内暗室

### 女性のための「家庭大工教室」

期 間 昭和63年 10 月 26 日 (水)～12 月 7 日 (水) 全 6 回  
 会 場 公民館および松林分館  
 参加者 13 人×6 回=78人  
 講 師 荻原 みどり 宮本 一美 (ハンディ・ウーマン)

月 日	テ ー マ	内 容
10. 26	大工道具あれこれ	大工道具の紹介、使い方について
11. 2	簡単な木工作	かなづちとのこぎりの練習用に箱をつくる
9	壁紙をはりかえる	壁紙のはりかえ方
16	ふすまをはりかえる	ふすまのはりかえ方
30	壁に物を取りつける 障子のはりかえ	いろいろな壁に物を取りつける方法 障子のはりかえ方
12. 7	スライドショー	スライド「変わりゆく女の仕事、男の仕事」を見て性別役割分業について考える

## 平成元年度

### 婦人問題講座 女のやみなべ

(性別役割分業をうちこわすために)

期 間 平成元年4月21日～平成2年3月16日 全23回

会 場 公民館本館

参加者 198人(延べ)

女と家族	11月8日(水) 11月17日(金) 夜7:30～10:00	女にも男にも刷り込まれているらしい、 “性別役割分業”ってなんだ? 「女らしさ」「男らしさ」を、家族を キーワードにして問い直す。	桜井陽子
女とからだ	12月1日(金) 12月8日(金) 夜7:30～10:00	私のからだは私のもの。からだについ て考えてみると、心とのつながりが見 えてくる。実際にからだを解き放して みると、新しい自分を発見できるかも しれない。	仁科きぬ子
	12月15日(金) 夜7:30～10:00	自分の子宮の大きさを知ってる? 女性の等身大の人体模型を使って遊び ましょう。	石橋初子
女と労働	2年1月19日(金) 夜7:30～10:00	選んでいるようで選ばされているのが 女の働き方だと言われています。今、 女の6割以上が働いているけれど、い ろいろ問題もありそう。女が真に望む 働き方ってなんなのか、一緒に考えて みましょう。	大須賀啓子
女と技術 (入門編)	2年2月19日(土) 午後2:00～4:30	タイヤ交換やオイル交換、チェーンの 取付けなど必要なのに手が出なかった 技術に挑戦してみませんか。	田村美奈子
フェミニズム 入門	2年3月16日(金) 夜7:30～10:00	フェミニズムを知るとは、20世紀最 大の冒険なんだって。胸の中のモヤモ ヤが、フェミニズムの水先案内で晴れ てくる! ところでフェミニズムって なんだ?	江原由美子

### おかあさんのカメラワーク

期 間 平成元年7月7日(金)～8月23日(水) 午前10時～正午 全5回  
 会 場 公民館本館、中央図書館および東京工芸大学  
 参加者 8人×5回=40人

月 日	内 容	講 師	会 場
7. 7	カメラとフィルムのいろは	奥村嘉邦 (東京工芸大学)	公民館
14	子どもの目の高さで		"
21	動きをとらえる		"
8. 2	現像・プリント		東京工芸大学
23	"		中央図書館

### 家庭教育学級「小学生」準備会

期 間 平成元年9月21日(木)～10月5日(木)  
 会 場 公民館本館  
 参加者 3人×3回=9人

月 日	内 容
9. 21	いま抱えている問題点や思っていることを出し合っていこう
28	プログラム(案)を検討する
10. 5	資料を読み合う

### 家庭教育学級「小学生」

期 間 平成元年11月30日～平成2年2月8日 午前10時～正午  
 会 場 公民館本館  
 参加者 34人×8回=272人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 30	いまだきの子ども	子ども110番の電話相談等を通して今の子ども達のかかえている状況を見ていく。	遠藤美枝子 (子ども110番 チーフ)
12. 7	うちの子ども	自分の子どもを通して見えてくる様々な問題を出し合っていく	
14	友達って何だろう	豊かな友達関係を作るための大人の関わりと子どもの成長・発達を考える	井上健治 (東京大学)
21	子どもの心とからだ	子どものからだの発達と心の発達を探っていく	正木健雄 (日本体育大学)
1. 11	教育はどこへいく	新学習指導要領を学ぶ中から、その問題点と私達の課題を探る	海老原治善 (東京学芸大学)
18	増えている登校拒否	登校拒否を正しく認識し、子どもを真正面から受け止めながら、教育や文化について考えていく	西條隆繁 (登校拒否児とともに歩む父母の会)
25	子どもの目の高さで	教育や文化の問題をもう一度、子どもの側からとらえなおしてみる	斎藤次郎 (評論家)
2. 8	まとめと反省	講座の内容を確認し、今後につなげる	



## 平成2年度

### 女性問題講座準備会

期 間 平成2年4月19日(木)～11月10日(土) 全7回

会 場 公民館本館、福祉会館

参加者 8人×7回=56人

月 日	内 容
4. 19	前年度の女性問題講座を振り返り、引き続き学習していきたい内容を出し合う
5. 19	今年度の講座でどんな学習をしていきたいかを話し合う
6. 2	〃
9. 22	プログラム案をつくる
10. 13	プログラム案を検討する
20	〃
11. 10	〃

### 女性問題講座 女のやみなべ 心とからだ かくされた可能性にチャレンジ

期 間 平成2年12月8日(土)～平成3年3月16日(土) 午後2時～4時 全10回

会 場 公民館本館

参加者 15人×10回=150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
12. 8	心とからだの コミュニケーションⅠ	自己紹介、 ストレス解消から瞑想まで	仁 科 きぬ子 (円トレーニング 研究所)
2. 15	コミュニケーションⅡ	コミュニケーション	〃
1. 12	からだをほぐして 護身術	力のいらない、女性のための護身術	佐々木 元 子 (鍼灸室 そらとびい)
19	もっと知ろうよ 自分のからだ	子宮の模型を作り、女性のからだにつ いて考える。	石 橋 初 子 (女性の人体模型 制作者)
26	自動車整備入門	タイヤ交換、チェーンのつけ方、 オイル点検など。	田 村 みな子 (自動車整備士)
2. 9	発見! わたし自身!	アサーティブトレーニングを通して、 女役割に押し込められている自分を解 き放つ。	岩 井 美代子 (COカウン セラー)
16	発見! わたし自身Ⅱ		
3. 2	発見! わたし自身Ⅲ		
9	発見! わたし自身Ⅳ		
16	21世紀のわたし	講座に参加して。これからの抱負	

家庭教育学級 「のびのびと子どもを育てたい」 準備会

期 間 平成2年9月13日～10月4日 午前10時～正午 全4回

会 場 公民館

参加者 5人×4回=20人

内 容 講座の中身をつくりあげるための話し合いと子どもの権利条約などを学びあう。

家庭教育学級 「のびのびと子どもを育てたい」

期 間 平成2年11月8日～12月6日 全6回

会 場 公民館

参加者 12人×6回=72人

月 日	テ	マ	内	容	講 師
11. 8	オリエンテーション	自己紹介	親の目から見た今の子ども	の状況を出し合う。	
15			子どもの権利条約を読む。	昨年11月採択された子どもの権利条約について、自分達の子育てに引き付けて学ぶ。	木 全 力 夫 (創価大学)
18			男の子育て。	父親不在の家庭が叫ばれている昨今ですが、子育てにおける父親の役割は、母親、そして地域社会と同じ様に大切です。映画「親ばかちゃんりん」を見ながら、男の子育て、家事参加について、考え合っていきます。	須 長 茂 夫 (原作者)
22			女性が働くことと子育て。	子育ては女の役割……という認識の強い中で、女性が働くことと子育てとのかかわりがいろいろといわれています。例えば、母親が働きに出ると子どもが非行にはしる……、買い食いや外食がふえる……などです。働く母親を子ども達はどう見てるのでしょうか？そして、親も子も生き生きと暮らしあえる関係をどう作っていったらよいか考える。	高 橋 道 子 (東京学芸大)
29			「親ばかちゃんりん」を見る。	前は日曜日のため参加できなかった方のためにもう一度上映する。	
12. 6	まとめ		今までのプログラムをふまえ、話し合い。		

一年生になる前に 準備会

期 間 平成3年1月17日～2月14日 毎週木曜日 午前10時～正午 全5回

会 場 公民館・福祉会館

参加者 5人×5回=25人

月 日	内	容
1. 17	講座の趣旨説明、内容について意見を出し合う	
24	プログラムを作る	
31	学習指導要領を学ぶ (教育基本法・学校教育法を読む)	
2. 7	〃	
14	〃	

おとうさん、おかあさんのための

1年生になる前に

期 間 平成3年2月21日～3月22日 午前10時～正午 全5回

会 場 公民館・福社会館

参加者 16人×5回=80人

月 日	テ ー マ	講 師
2. 21	よろこんで学校へ行けるために	渡辺静子(元小学校長)
28	勉強のことあれこれ	海老原治善(東京学芸大教授)
3. 7	子どものころとからだ	坂入博子(専門家)
14	P T A入門	高水清安(市P連会長)
22	子どもの豊かな育ちをささえあうために	溝淵幸太郎(専門家)

平成3年度

女性問題講座準備会

期 間 平成3年5月15日(水)～5月23日(木) 午後7時30分～9時30分 全2回

会 場 公民館

参加者 5人×3回=15人

月 日	内 容
5. 15	福生市の状況、「女性行動計画」とは何か、どんな内容にしたらいいか。
23	〃
6. 17	〃

女性問題講座「女性行動計画ってなあに？」

期 間 平成3年7月13日(土)～8月31日(土) 全5回

午後2時～4時、7時30分～9時30分

会 場 公民館

参加者 15人×5回=75人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 13	「女性行動計画」とは何か	日々の暮らしの中でどんなことを女性問題として感じているか。女性問題の視点、女性問題の現状をみる視点	村 田 晶 子 (実践女子大講師)
17	〃	前回の講義をうけて話し合う	
8. 10	中野区の取り組みに学ぶ	計画策定までの動き、今後の見通し、福生へのアドバイス	西 山 恵美子 (中野の婦人行動計画推進を促す会)
21	国分寺市の取り組みに学ぶ	〃	出 井 ミチ子 (国分寺女性問題懇談会)
31	福生市の「女性行動計画」	これからどうしていったらよいか	

## 平成4年度

### ワープロ教室Ⅰ

期 間 平成4年6月17日(水)～6月22日(月) 全5回  
会 場 公民館本館  
内 容 東芝ルポ80Fを使い、ワープロの基本を学ぶ  
参加者 10人×5回=50人  
講 師 システム情報館インストラクター

### ワープロ教室Ⅱ

期 間 平成4年10月14日(水)～10月22日(木) 全5回  
会 場 公民館本館  
内 容 東芝ルポ95F等を使い、ワープロの基本を学ぶ  
参加者 5人×5回=25人

### ふっさ女性フォーラム'92

期 間 平成4年10月17日(土) 午後2時～4時30分 全1回  
会 場 市民会館小ホール  
参加者 157人  
内 容 講談 「山下さんちの物語～女性問題入門編～」 宝井 琴 桜(講談師)  
講演 「これからの女と男」 円 より子  
(現代家族問題研究所代表)

### パネル展“女たちがつくる「防犯」フェスティバル”より

期 間 平成4年10月17日(土) 午後1時～5時 全1回  
会 場 市民会館小ホールロビー  
来場者 157人  
内 容 面白防犯グッズ、彫像ウォッチング、女のかるた、「みずら」の標語

## 平成5年度

### 道を拓いた女たち～先駆者たちの肖像パネル展～

#### 第1回

期 間 平成5年7月9日(金)～11日(日)  
会 場 公民館本館 展示室  
来場者 120人  
内 容 近代女性史の中で、それぞれの分野で草分けとなり、大きな影響を与えた女性たちの写真パネル展

## 第2回

- 期 間 平成5年10月22日（金）～24日（日）  
会 場 公民館本館 展示室  
来場者 200人  
内 容 近代女性史の中で、それぞれの分野で草分けとなり、大きな影響を与えた女性たちの写真パネル展

## 女性ワープロ教室

- 期 間 平成5年11月11日（木）～12日（金）  
午前9時30分～正午 全2回  
会 場 公民館本館  
内 容 東芝ルポ98vを使い、ワープロの基本を学ぶ  
参加者 10人×2回=20人  
講 師 Tスクエア インストラクター

## ふっさ女性フォーラム '93

- 期 間 平成5年10月23日（土） 午後2時～4時 全1回  
会 場 市民会館小ホール  
参加者 260人  
内 容 講演「わたし、を生きる」 落合 恵子（作家）

## 「ふっさ女性フォーラム '93」をすすめる会

- 期 間 平成4年12月12日（土）～平成5年10月23日（土） 全14回  
会 場 公民館本館  
参加者 8人×14回=112人  
内 容 「ふっさ女性フォーラム'93」をどんな内容でどのようにすすめたらよいかを話し合う。

## 平成6年度

### アメリカのポスター展

- 期 間 平成7年3月16日（木）～19日（日）  
会 場 公民館本館 展示室  
来場者 80人  
内 容 さまざまな職域で活躍するアメリカの女性を応援するポスター展。

## ビデオ&トーク「ルッキング・フォー・フミコ」

日 時 平成7年3月18日(土) 午後1時30分～4時  
会 場 公民館本館  
参加者 10人×1回=10人  
内 容 ビデオ「ルッキング・フォー・フミコ」を見て、70年代にマスコミを賑わしたウーマン・リブの運動が何を求める運動だったのかを話し合う。  
コメンテーター 若林 苗子(元リブ新宿センターメンバー・現在自然食品店自営)

## 女性ワープロ教室

期 間 平成7年1月25日(水)、26日(木)  
午前9時30分～午後1時 全2回

会 場 公民館本館  
内 容 東芝ルポ98vを使い、ワープロの基本を学ぶ  
参加者 10人×2回=20人  
講 師 Tスクエア インストラクター

## ふっさ女性フォーラム '94

期 間 平成7年1月14日(土) 午後2時～午後4時30分 1回  
会 場 市民会館小ホール  
参加者 97人

テーマ 貴女、フルネームで生きていますか？

内 容 講談「山下さんちの物語～夫婦別姓編」 宝井 琴 桜(講談師)  
シンポジウム「貴女、フルネームで生きていますか？」  
金城 清 子(弁護士)  
村瀬 春 樹(エッセイスト)  
大川 和 恵(市民・国分寺市立小学校教諭)  
石橋 初 子(福生市女性問題連絡会)

## 「ふっさ女性フォーラム '94」をすすめる会

期 間 平成6年5月27日(土)～平成7年2月10日(土) 全11回  
会 場 公民館  
参加者 8人×11回=88人  
内 容 「ふっさ女性フォーラム '94」をどんな内容でどのようにすすめたらよいかを話し合い、運営する。

## 平成7年度

### 北京女性会議報告会

期 間 平成7年10月14日（土） 午前10時～正午 全1回

会 場 公民館本館

参加者 27人×1回=27人

### 働く人のための「女性学」講座

期 間 平成8年1月6日（土）～3月30日（土） 午後2時～4時 全8回

会 場 公民館本館

参加者 6人×8回=48人

月 日	内 容	講 師
1. 6	労働と家族をめぐる性別役割分担①	内 藤 和 美 (昭和女子大学助教授)
20	〃 ②	
27	〃 ③	
2. 3	ケア・「ケア役割」・ケアワーク	内 藤 和 美 (昭和女子大学助教授)
24	セクシャルハラスメント	
3. 2	私たちのオールタナティブ	
23	女性に対する暴力	内 藤 和 美 (昭和女子大学助教授)
30	「家」と氏と戸籍	

### 女性問題パネル展「均等法・女性」

期 間 平成8年2月22日（木）～28日（水） 午前9時～午後10時 全1回

会 場 公民館本館

来場者 40人

### 女性問題パネル展「日本の女性展」

期 間 平成8年3月20日（水）～23日（土） 午前9時～午後10時 全1回

会 場 公民館本館

来場者 50人

### ふっさ女性フォーラム「女が働く意味を考える」

期 間 平成8年1月13日（土） 午後2時～4時 全1回

会 場 市民会館小ホール

参加者 112人

内 容 シンポジウム「女が働く意味を考える」

パネラー 中 島 通 子（弁護士）

佐 藤 洋 子（エポック10・豊島区男女平等推進センター所長）

上 野 いく子（グループSR代表）

司 会 黒 木 まゆみ（福生市女性問題連絡会）

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

期 間 平成7年6月24日(土)～平成8年1月20日(土) 午前または夜間 全12回  
 会 場 公民館本館  
 参加者 96人

平成8年度

ふっさ女性フォーラムへむけての学習会

期 間 平成8年10月23日(水)～12月4日(水) 全8回  
 会 場 公民館本館  
 参加者 54人

月 日	内 容	講 師
10. 23	施設見学(特別養護老人ホーム第2サンシャインビラ)	
30	施設見学(特別養護老人ホームヨコタホーム)	
30	福生市の現状Ⅰ(行政の取り組み)	大和正幸(生活福祉課)
11. 7	福生市の現状Ⅱ(現場の声を聞く)	小宮みさ子(在宅福祉課 ホームヘルパー) 坂本京子(福生市社会福 祉協議会) 助言 上野いく子(グル ープエスアール代表)
13	日本の高齢者福祉—ジェンダーの視点で見直す—	上野いく子
20	日本の高齢者福祉—『21世紀ビジョン』の基本的な考え方—	上野いく子
27	仕事としての介護とは	上野いく子
12. 4	講座のまとめ(参加者によるレポートをもとに話し合う)	上野いく子

講座「安心して老いるために」

期 間 平成9年3月7日(金)～3月28日(金) 全3回  
 会 場 公民館本館  
 参加者 19人

月 日	内 容	講 師
3. 7	映画「安心して老いるために」を見る	上 野 いく子
14	映画「安心して老いるために」から見えてくる女性問題	(グループ
28	介護する側される側、どんな介護のあり方にしていきたいか	エスアール代表)



ふっさ女性フォーラム「介護は女性だけが担うものですか？」

開催日 平成9年2月8日(土) 午後1時30分～4時 全1回

会場 市民会館小ホール

参加者 126人

内容 シンポジウム「介護は女性だけが担うものですか？」

パネリスト 福島 瑞穂(弁護士)

武田 京子(新宿区立女性情報センター相談員)

小林 俊子(埼玉県立衛生短期大学講師)

ふっさ女性フォーラムをすすめる会

期間 平成8年7月6日(土)～平成9年2月20日(木) 全15回

会場 公民館本館

参加者 63人

ふっさ女性フォーラム— 講演&シンポジウム

あなた  
**貴女、フルネームで  
生きていますか**



—夫婦別姓、あなたならどうする?—



金城 清子  
(弁護士・津田塾大教授)



村瀬 春樹  
(エッセイスト)



至井 静枝  
(講師)

入場無料  
全席自由
☎ 手話通訳あり

●平成7年1月14日(土)午後2時開演  
●福生市民会館 小ホール

●主催/ふっさ女性フォーラムをすすめる会  
福生市公民館  
●協力/福手の会  
※問合せ/福生市公民館 ☎0425(52)1711

11月25日(金)より、  
入場整理券を配布  
します。

配布場所: 公民館本館・分館  
市役所市民相談係

ふっさ女性フォーラム— シンポジウム

**女が働く意味を考える**



<パネラー>



金城 清子  
(弁護士)



佐藤 京子  
(新宿区立女性情報センター相談員)



上野 いく子  
(フリースタイル・モデル)

先着260名  
入場無料  
全席自由
☎ 手話通訳あり

※お子様連れの方は、モニター室で  
観覧いただけます。

●平成8年1月13日(土)午後2時開演  
●福生市民会館 小ホール

●主催/ふっさ女性フォーラムをすすめる会、福生市公民館  
●協力/福手の会、手話サークルもみじ  
※問合せ/福生市公民館 ☎0425(52)1711 FAX:0425(30)2511

12月7日(木)より、  
入場整理券を配布  
します。

配布場所: 公民館本館  
白旗分館  
松林分館  
市役所市民相談係